

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和 51 年度

京都大学農学部構内遺跡調査会
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内遺跡調査会

序

京都大学は遺跡の上の大学とさえいわれている。京都大学農学部・理学部構内および教養部構内は文化財保護法により周知の埋蔵文化財包蔵地としてあげられている。農学部演習林においては、つとに大正12年、縄文時代の土器・石器類が発見されており、またその西方から西北方にかけて別当町・追分町などには縄文時代の散布地、奈良時代前期の瓦窯跡、奈良時代前期から鎌倉時代にわたる北白川廃寺跡等が知られている。また同構内は昭和47年来、諸建築物新営工事に伴い数次の発掘調査が行われ多くの縄文・弥生・奈良・平安時代の出土物が見られた。とくに昭和48年に行なわれた理学部植物園内のノートバイオトロン実験装置室新営工事に伴う調査によって発見された縄文時代の配石・甕棺遺構は西日本においては貴重なものであり、近傍の地に復元保存の方針が定められた。

教養部構内においては、昭和47年11月図書館新営工事中、縄文・弥生時代の出土物が発見され、文化財保護法にもとづく周知の埋蔵文化財包蔵地と目されたため、昭和50年度校舎新営工事に際して事前調査が行なわれた。

京大熊野寮・職員宿舎のあたりは、そこから北にかけて白河北殿が位置したところと推定されており、病院構内から医学部へかけて院政時代の条坊が存在したところとみられている。

このように、少なくとも左京の京大構内は遺跡の上の大学と呼んでもさしつかえないところである。したがって、昭和51年度は周知の埋蔵文化財包蔵地ばかりでなく、同構内の新営工事に先立って要所にテストピットを掘り、埋蔵文化財の包含の状態を探り、その状態に応じ文化財行政当局と協議のうえ本格的発掘調査を行なうこととし、その他は立合調査を行なった。また逐年行なわれている諸配管類の基幹整備工事にもできるだけ立合調査を行なった。

本格的調査は、昭和51年度は京都大学農学部構内遺跡調査会が発掘調査の実施および概報の作成を担当することとなった。この調査会は、京都市の文化財保護課とも協議のうえ、周知の埋蔵文化財包蔵地に位置する農学部農林生物学等研究室実験室新営工事に伴って6月下旬に設立されたものであるが、医療技術短期大学部およびR I 治療センターの建設敷地の試掘結果にもとづき、同調査会でこれらの発掘調査をも実施することとした。

一方、和歌山県白浜の理学部付属瀬戸臨海実験所の職員宿舎新営に際し、同地が周知の

埋蔵文化財包蔵地であることから発掘調査を要することとなり、和歌山県教育委員会と協議した結果、別途に京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内遺跡調査会を設立することとなり、同調査会の手によって昨秋第1次調査を行なった。同調査会委員会の判定にもとづき、さらに昭和52年2月中旬から3月末にかけて第2次発掘調査を実施することを定め、現在進行中である。なお、第2次調査の概報の作成は次年度に行なう予定である。

上記二つの調査会の設立に協力された京都市文化財保護課、白浜町教育委員会、また調査会委員として参加を快諾され御指導を頂いた京都市文化財保護課長中山忠之氏および和歌山県文化財課長井上至氏、同文化財保護審議会委員羯磨正信氏、巽三郎氏、白浜町文化財保護審議会委員小山富造氏に深甚の謝意を表するものである。

終りに、上記二つの調査会々長を引受け、初めて埋蔵文化財の発掘調査に携わった体験を通じての私見を述べさせて頂く。

第1に、本年度の調査は学内の関係職員の非常な熱意によってようやく遂行されたものであり、在来の埋蔵文化財調査室をより拡充強化した新たな学内組織とする必要があること。第2に、現調査会の発足は農学部新営工事に伴う暫定的なものであり、遺跡の上の大学ともいふべき我が京都大学では、恒常的かつより包括的な組織に改める必要があること。第1の学内組織と調査会は互いに補完することにより初めて文化財保護法の精神に則した調査が遂行できると考える。第3に、埋蔵文化財の発掘調査は単に出土物・遺構等の発見あるいは保存を目的とするものではなく、調査地、さらには周辺地域の文化史、地形形成史等の学術的知見を高め、国民文化の向上に資する点が重要である。したがって、遺構・遺物の出土の状況、包蔵地層の性状・層序等のできるだけ詳細な記録と、それにもとづいた史学的考察を加えた報告書の公刊されることが必要である。このためにも第1にあげた学内組織の重要性がある。

年度内に行なった調査の概要報告を年次報告の形式で出すことは今回が初めてであるが、今後ともこの形式が継続されることを望みたい。本年度の調査の主要な部分を担当し、かつこの報告書の作成に当たった調査会々長として序を記するものである。

京都大学農学部構内遺跡調査会

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所

構内遺跡調査会会長

京大教授 横尾義貫

例 言

- 1 本年報は京都大学農学部農林生物学科等研究室実験室新営工事に伴う事前調査と医療技術短期大学部校舎新営工事に伴う事前調査、理学部附属瀬戸臨海実験所宿舎新営工事に伴う事前の試堀調査の概要報告 および京都大学構内で昭和51年4月から昭和52年1月末日までに行った埋蔵文化財調査と保存の概要報告書である。
- 2 遺跡の表示における方位TNは真北Nは磁北をさす。標高は国土地理院の水準に従った。遺構の略号を使う場合は溝(SD)井戸(SE)のように奈良国立文化財研究所の方式に従って表示した。
- 3 遺物番号は本文、写真、実測図における表示を統一し巻末の第6～7表で相互関係を示した。遺跡、器種の区別をアルファベットで表示し、器種別に01から付した。アルファベットの前は遺跡、後は器種を示す。

A：農学部遺跡	H：病院内遺跡	W：和歌山県瀬戸遺跡
A：灰釉陶器	B：黒色土器	C：須恵器
D：瓦質土器	E：弥生土器	G：緑釉陶器
H：土師器	J：縄文土器	K：国産陶磁器（中世以後の他の種類に含まれない国産陶磁器）
M：金属器	N：古銭	O：須恵質土器（須恵器の製作技法を受け継いだ無釉の陶器）
P：輸入陶磁器	Q：土製品	R：石製品
S：石器	T：瓦	Z：瓦器
- 4 年代の表記は原則として縄文時代は5期区分、弥生時代は3期区分を用い古墳時代以降はできる限り西暦（世紀）で表示した。
- 5 遺物整理 実測 製図は調査員全員と、整理に参加した調査補助員及び梅川厚子 深沢芳樹が行った。遺物の写真撮映は泉拓良 上野利明 牛嶋 茂が行った。
- 6 本年報の構成、編集は泉が立案し、泉、吉原、上原、宇野、岡田、鎌田、中村が各章を分担して編集した。執筆者名はそれぞれの文末に記した。

目 次

第1章 構内遺跡と調査の概略

- 1、 構内遺跡の発見と調査の歴史 1
- 2、 京都大学構内遺跡調査会 3
- 3、 昭和51年度調査の概要 5
- 4、 構内における史跡の文献的考察 8

第2章 農学部遺跡B E 33発掘調査

- 1、 調査の方法 15
- 2、 遺跡 15
- 3、 遺物 21
- 4、 A区北壁の花粉分析 37
- 5、 むすび 39

第3章 病院内遺跡A E 15の発掘調査

- 1、 調査の方法 43
- 2、 層位 43
- 3、 遺構 46
- 4、 遺物 53
- 5、 むすび 63

第4章 和歌山県瀬戸遺跡の発掘調査

- 1、 遺跡と層位 67
- 2、 出土遺物 72

第5章 遺跡保存と立合調査

1、 植物園遺跡B D 35縄文配石遺構の移築	77
2、 教養部遺跡A L 24の立合調査	78
3、 教養部遺跡A S 23の試掘調査	79
4、 農学部遺跡B J 33の試掘調査	80

図版目次

写真

1 遺跡（農学部遺跡）	1 発掘前全景 2 表土層除去後全景
2 遺跡（農学部遺跡）	1 A区北壁層位 2 C 2区北壁層位
3 遺跡（農学部遺跡）	1 C 1区東壁層位 2 C 2区東壁層位 3 不定形ピット内層位
4 遺跡（農学部遺跡）	1 縄文時代土壌（平面） 2 縄文時代土壌（断面）
5 遺跡（農学部遺跡）	1 B・C 1・C 2区第12層上面遺構検出 2 同遺構発掘後
6 遺跡（農学部遺跡）	1・2井戸 3・4集石ピット
7 遺物（農学部遺跡）	縄文土器 弥生土器
8 遺物（農学部遺跡）	土師器
9 遺物（農学部遺跡）	羽釜・土鍋
10 遺物（農学部遺跡）	須恵器、緑釉陶器 灰釉陶器
11 遺物（農学部遺跡）	須恵質土器 国産陶磁器 外来陶磁器
12 遺物（農学部遺跡）	瓦 ₁
13 遺物（農学部遺跡）	瓦 ₂
14 遺物（農学部遺跡）	石器・石製品
15 花粉（農学部遺跡）	
16 遺跡（病院内遺跡）	1 発掘前全景 2 E-1区発掘終了面
17 遺跡（病院内遺跡）	1 W-1区発掘終了面 2 池跡（S G 11）
18 遺跡（病院内遺跡）	1 溝（S D 104・105） 2 溝（S D 102）と石組（S X 11） 3 溝（S D 111）
19 遺跡（病院内遺跡）	1 E-2区発掘終了面 2 井戸（S E 25）

- 20 遺跡（病院内遺跡） 1 E-1区第2遺構面 2 石敷遺構（SX21） 3 石列（SX22）
- 21 遺跡（病院内遺跡） 1 火舎出土状態 2 E-1区第1遺構面
- 22 遺跡（病院内遺跡） 1 W-1区第1遺構面 2 E-2区第1遺構面
- 23 遺物（病院内遺跡） 土師器
- 24 遺物（病院内遺跡） 土師器 瓦質土器 瓦器
- 25 遺物（病院内遺跡） 須恵質土器 瓦質土器 緑釉陶器 灰釉陶器
- 26 遺物（病院内遺跡） 国産陶器、火舎、硯、石鍋
- 27 遺物（病院内遺跡） 輸入陶磁器
- 28 遺物（病院内遺跡） 瓦₁
- 29 遺物（病院内遺跡） 瓦₂
- 30 遺物（病院内遺跡） 瓦₃
- 31 遺跡（瀬戸遺跡） 1 宿舎建設予定地 2 給排水管理設予定地
- 32 遺跡（瀬戸遺跡） 1 テストピット断面 2 第5ピット東南部の落ち込み
- 33 遺物（瀬戸遺跡） 1 第1ピット第4層出土の縄文土器 2 第1ピット第5層出土の縄文土器
- 34 遺物（瀬戸遺跡） 1 第2ピット第9層出土の縄文土器 2 第1～第4ピット出土の土器
- 35 遺物（瀬戸遺跡） 1 第5ピット出土の遺物 2 刻み目の各種 3 成形痕

図 面

- 36 遺物（農学部遺跡） 縄文土器
- 37 遺物（農学部遺跡） 土師器 黒色土器 瓦器
- 38 遺物（農学部遺跡） 羽釜 土鍋
- 39 遺物（農学部遺跡） 須恵器 須恵質土器
- 40 遺物（農学部遺跡） 陶磁器
- 41 遺物（農学部遺跡） 瓦₁
- 42 遺物（農学部遺跡） 瓦₂
- 43 遺物（農学部遺跡） 石器 石製品
- 44 遺物（病院内遺跡） 一括遺物₁（SG11・SD108）

45	遺物 (病院内遺跡)	一括遺物 ₂ S D 102・103・104・105
46	遺物 (病院内遺跡)	一括遺物 ₃ S D 110・111、S K 13、S E 23・25、S K 23・
47	遺物 (病院内遺跡)	土器 石製品
48	遺物 (病院内遺跡)	瓦 ₁
49	遺物 (病院内遺跡)	瓦 ₂
50	遺物 (病院内遺跡)	瓦 ₃
51	遺物 (瀬戸遺跡)	縄文土器、須恵器
52	遺跡	京都大学構内遺跡地区割図
53	遺跡 (農学部遺跡)	調査地域位置図
54	遺跡 (農学部遺跡)	発掘区域図
55	遺跡 (農学部遺跡)	C 1・C 2区東壁層位図
56	遺跡 (農学部遺跡)	18・19ライン層位図 (B・C 1・C 2区)
57	遺跡 (農学部遺跡)	B・C 1・C 2区主要遺構平面図
58	遺跡 (病院内遺跡)	発掘区域図
59	遺跡 (病院内遺跡)	E-1区サブトレンチ南壁層位図
60	遺跡 (病院内遺跡)	W-1区南壁層位図
61	遺跡 (病院内遺跡)	E-2区東壁層位図
62	遺跡 (病院内遺跡)	W-1区東壁層位図
63	遺跡 (病院内遺跡)	池 S G 11・溝 D 108 断面層位図
64	遺跡 (病院内遺跡)	E-1区・W-1区発掘終了面平面図
65	遺跡 (病院内遺跡)	E-1区・W-1区第1遺構面平面図
66	遺跡 (病院内遺跡)	E-2区発掘終了面平面図
67	遺跡 (病院内遺跡)	E-2区第1遺構面平面図
68	遺跡 (病院内遺跡)	E-1区第2遺構面平面図
69	遺跡 (病院内遺跡)	井戸 S E 31・22・25
70	遺跡 (農学部・教養部試堀)	層位図

本文挿図

第2章

1	縄文時代土壙	19
2	井戸	20
3	集石ピット	21
4	縄文時代土壙出土土器	22
5	C1区出土弥生土器	23
6	大平鉢の口縁部	30
7	銭貨	37
8	花粉分析試料採集層位	37

第3章

9	S D105土器出土状態	47
10	E-1区東端土器出土状態	48
11	S B21柱穴内出土青磁	50
12	S K24 土器出土状態	50
13	大平鉢の口縁部(1)	56
14	大平鉢の口縁部(2)	56
15	土製円塔	56
16	泥面子(1)(拓本)	58
17	泥面子(2)	59
18	伏見人形	59
19	火舎および六器	60
20	瓦範磨耗の諸段階	62
21	瓦製円板	63

第4章

22	臨海実験所構内全図	69
----	-----------	----

23	各テストピットの層位	70
24	第5ピットの落ち込みにみられる石塊	71
25	凸帯の刻み方の3種別数量	70
26	凸帯の刻み方3種別に対する口縁端部に刻み目をもつものの割合	70

第5章

27	移築模式図	78
28	縄文土器	80
29	縄文土器	80

表

1、	おもな構内遺跡調査の年表	2
2、	昭和51年度調査の大要	6
3、	花粉分析結果	39
4、	主要遺構の年代観	53
5、	第1遺構面棚列計測表	66
6、	農学部遺跡出土遺物対照表	82
7、	病院内遺跡出土遺物対照表	90
8、	瀬戸遺跡出土遺物対照表	98

昭和52年 3 月25日印刷

昭和52年 3 月31日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

編 集 京 都 大 学 農 学 部 構 内 遺 跡 調 査 会
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内遺跡調査会

発 行 京 都 大 学 農 学 部 構 内 遺 跡 調 査 会
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内遺跡調査会

印 刷 有 限 会 社 真 陽 社
製 本

京都市下京区油小路仏光寺上ル